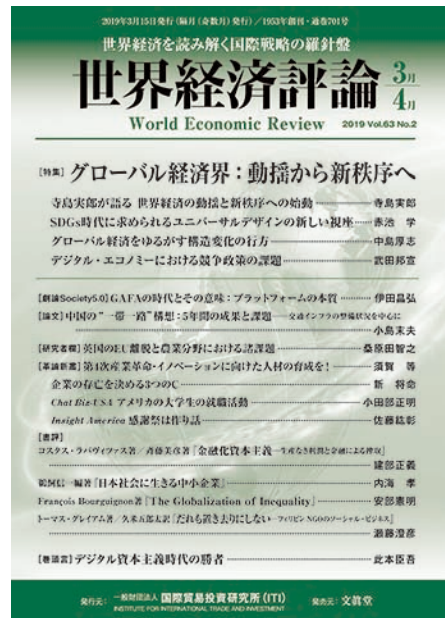


本論文は

# 世界経済評論 2019年3/4月号

(2019年3月発行)

掲載の記事です



## 世界経済評論

# 定期購読のご案内

年間購読料

1,320円×6冊=7,920円

# 6,600円

税込

17%

送料無料

OFF



定期購読  
期間中

富士山マガジンサービス限定特典

※通巻682号以降

# デジタル版バックナンバー読み放題!!



## 世界経済評論 定期購読



# ☎0120-223-223

[24時間・年中無休]

お支払い方法

Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。  
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

**Fujisan.co.jp**  
雑誌のオンライン書店

## 日本社会に生きる 中小企業

東京外国語大学名誉教授 内海 孝



[編著者] 鵜飼信一 (うかい しんいち)  
早稲田大学商学大学院教授  
[発行] 中央経済社, 2018年10月  
[判型] A5判, 216ページ  
[定価] 2700円+税

何を専門にしているのかも知らなかった。だが、町工場に行くとお聞きし、ごいっしょしたことが一度ある。それは週一度の出講日の教員室で、たまたまの出会い会話から誘っていただいた。気さくな語り口とお人柄に引きつけられたにちがいない。

このことは、編著『日本社会に生きる中小企業』の執筆人が弟子の研究者だけでなく、師匠と出会った実務家たちが加わっていることに象徴される。さまざまな切り口で論じるさまは、師匠としての包容力と多才さを裏書してあまりある。

紙数の関係で、本書の第1部「中小企業随想録」のみを対象とせざるをえない。師匠の2019年3月定年退職記念に組まれた企画書籍にて、その作品群であればこそ許されよう。

作品群は、師匠が『ものづくり共和国メールマガジン』の2000年12月号から17年7月号まで毎月寄せた原稿から抜粋し若干の手直しをして構成された。いわば「鵜飼中小企業論」の現在が提示されていると考えてよい。

総括的なキーワードをあげるとすれば、三点に絞ることができる。A 生業資本主義、B 身体化された知識、C 歯槽膿漏の空洞化である。

Cは1992年の調査季報論考のなかで、機械工業基盤に不可欠の加工機能が徐々に脱落する「歯槽膿漏型の空洞化」を懸念すると指摘して以来のキー概念である（『現代日本の製造業』1994年、122ページ）。

1990年前後時期を境にして、師匠の分析手法は中小企業の実態にいつそう迫るべく、既存のデータ分析に依存することがなく、アンケート分析に傾注しはじめた。この新しい方向性は同時に、師匠をして町工場の現場へと足を頻繁に向けさせた。

しかも、それは師匠の父が経営した1947年創業の鍍金工場が最大で40人ほどの従業員を抱えて、1980年に幕を閉じたことと無関係ではない。この家族史的な工場経営の実態と欠点を回想的にさらけだす。この「中小企業随想録」のもうひとつの魅力である。

キー概念AとBは、そのような触合い調査と自省のなかで発酵した。ただ、頭でっかちと怒鳴られた徒弟時代を思いおこせば、Bについては「身体化された技」ではないのか。

第一回の『中小企業白書』が1964年に刊行されて以降に、1981年の白書で事例紹介は固有名称を省きつつ開始された。一ページ大の事例紹介となるのが2002年版で、目次並みの事例一覧が登場するのは2014年版である。

白書でさえも、現場の事例を固有名称つきで重視して増加させる。その流れからいえば、師匠の「中小企業随想録」は一部抜粋でなく、さらに補足しつつ全部を収録する作品化が望まれるところである。

(うつみ たかし)